
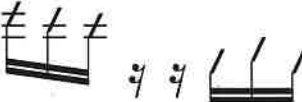


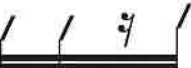


『冒険の旅』寸評

- ・奏法の変化に富んだきいててたのしい作品
- ・ゆるやかな和声進行のうちにもこれでもかとばかりに個性をいかすアーティキュレーションが詰まっている
- ・どの楽器も音域を広く用いて多彩な音響を提供
- ・m.14-16へ向けて全体の音域が下行していくことで終止感を演出
- ・タイトルの冒険と旅はややトートロジー（同語反復）におもえる

完成度をさらに上げるために

- ・ m.1-2 Fl. 一般的に装飾音符は装飾される音符とスラーをつけて演奏されるので、スラーを振ろう
- ・ m.4 b.3 Ob. ここは四分音符でよい
- ・ m.8 b.2-3 Cl. デイナミック指示がやや疑問
- ・ m.9 b.4 Fl.とOb.の記譜  m.11 b.1, 4も同様
- ・ m.10 b.1-2 Ob.の記譜 
- ・ m.9-12 Cl.の記譜  16分音符のスタッカートはこの曲想においてあまり現実的ではない
- ・ m.12 b.2 Fl.とOb.の記譜 
- ・ m.12 b.4 Fl.とOb.の記譜 
- ・ m.14 b.4のファゴットも八分音符にスタッカートのほうが曲想にあう
- ・ ファゴット（イタリア語）、Bsn.（英語）どちらかに統一しよう

m.=measure 小節番号のことです。
b.=beat 拍のことです。

のびのびとした作風が
とても好ましいです。

持麿 勉